



アンケートにご協力いただいた企業の生の声 ＜アーカイブス①＞

商社系	入社時にはまず会社という組織・チームの中で活躍できる素質が備わっていることが求められます。最初から「働きかける」、「計画する」、「創造する」よりも、チームで働く素質を基に、業務を入社1年目に理解・習得した上で、その次に応用段階として「計画力」、「創造力」、「働きかけ力」を発揮する人材になってほしいです。（平成25年度アンケートから）
IT系	ベテラン社会人でもすべてにおいて長けている者はいません。誰しも得意分野があるものです。社会人基礎力を学生本人が活用する際には、すべての能力を磨くことを目的とせず、社会で求められる基礎的要素全体像を理解すること、その中で自身の得意分野（長所）を発見し、自ら目的をもったキャリアデザインを設計するツールとして活用してもらいたいです。（平成25年度アンケートから）
製造系	大学時代に徹底的に「考え抜く力」を鍛えて、その上で「前に踏み出す力」を身に付けることを期待します。 （平成24年度アンケートから）
IT系	学力よりは、社会で働くためには、他人との協調が必要なので、他の人と一緒に何かをしている経験が大切だと思っています。複数の学生で一つのことを行う授業・クラブ・アルバイトでもよいので、何か他の人とやってから社会に出てほしいです。（平成24年度アンケートから）
製造系	弊社は入社3年目でプロ人材を育成するよう努めております。今回、備えておくべき力として第1位に「柔軟性」を選択いたしました。弊社では「素直さ」が重要だと考えております。若年層は特に周りの話を受け入れることが成長への第1歩であると考えております。（平成24年度アンケートから）
製造系	自分の個性や好き嫌いだけで判断することなく、どんどん幅広いフィールドに飛び出してほしい。前面に自分を出し過ぎて視野が狭くなる傾向が最近の学生に感じる。（平成24年度アンケートから）



アンケートにご協力いただいた企業の生の声 ＜アーカイブス②＞

金融系	12要素のほか、礼儀・挨拶・一般常識やコミュニケーション能力も重視しています。また、指示待ちではなく、積極的に自らが行動することも必要であり主体性を重視します。（平成24年度アンケートから）
サービス系	どのような仕事もそうですが、1から10まですべてを教えてくれることなどありえません。待つのではなく自分から取りに行くこと妥協しないことが重要だと思います。 そのためにはお客様が何を求め、自分が何を提供できるのか、そしてそのために自分に何が必要なのかを考えることで仕事が判り面白くなっていくのではないかと思います。「課題発見力」は学生の時からでも身に付けられますから、是非とも身に付けてほしいと思います。（平成25年度アンケートから）
サービス系	就職活動を控えている学生が、早い段階で、「社会人基礎力」という言葉を知り、その内容を理解しておくことが必要だと考えます。この言葉と内容を理解していると、自己分析もしやすくなると考えます。（平成24年度アンケートから）
通信系	企業が必要としていることと、学生が必要だと考えていることに少しズレを感じることもあるので「社会人になるためには何が必要か？」を再考してほしい。（平成24年度アンケートから）
小売系	世の中で起きていることを自分に関係していることと捉えられるか否かが企業で活躍する上で非常に重要です。興味をもって物事を見る・考える習慣を大学時代に身に付けておいてほしいと思います。（平成24年度アンケートから）



アンケートにご協力いただいた企業の生の声 ＜アーカイブス③＞

金融系	社会人基礎力の前提となる、礼儀・挨拶等も重要です。業種的には（金融系）コミュニケーション能力を必要としています。また、指示待ちではなく積極的に自らが行動することも必要な業種であり、「主体性」を重視しています。（平成25年度アンケートから）
通信系	最近、若者層において、メンタル疾患による体調不良者が増えております。上司や同僚とのコミュニケーション不足も原因の一つと思われますが、ストレスを上手に処理できるメンタル耐性も必要かと思えます。修羅場を乗り越えていけるような強い精神力が身に付いていないような気がしております。（平成25年度アンケート）
製造系	①仕事を抱え込まず、STEPごとに上司に報告すること、②やっているのか、いないのか、きちんと返事が出来ること。この2つが出来る人であってほしいです。（平成25年度アンケートから）
金融サービス系	企業の人材の育成ツールとして、コンピテンシーを取り入れた会社が多くあります。知っていることより行動していることが問われ、行動特性の要素となる「社会人基礎力」を意識して学生生活を過ごすことは、最善のトレーニングになると考えます。（平成25年度アンケートから）、曖昧になっているその会社の社員の理想像を明確にすることに役に立つものだと思います。ただ、同時に会社のステージ（創業期、成長期、安定期等々）によって大きく変わっていくものであることも感じました。よって企業がこのような指標を毎年就職活動生に明示する機会があれば特に学生にとって有益なことであると考えられると強く感じました。（平成25年度アンケートから）

「平成27年度 社会人基礎力白書」まとめ

- ★ 平成26年10月1日に実施したアンケート調査の結果、就職を控えた大学生及び企業へのアンケートから社会人基礎力について以下の内容が理解されました。
- ★ 学生の予想による「企業が求める新卒入社時に身に付けておくべき社会人基礎力」は、第1位「主体性」、第2位「実行力」、第3位「柔軟性」でありましたが、企業側の考えは、第1位「主体性」、第2位同率で「実行力」と「傾聴力」、第3位同率で「規律性」、と「柔軟性」となりました。学生はほぼ正確に、企業がどのような社会人基礎力を優先しているかを予想していることがわかりました。その反面、学生の回答による「社会人基礎力12要素」のうち、あなたが現時点で身につけていない力・弱み」についての結果では、身につけていない力の第3位に「主体性」がランクされており、予想はしているが未だその力の不足を自覚していることが理解されます。昨年と同様の結果ですが、やはり、学生は入社後3年間は仕事への取り組みを通して「主体性」という能力の開発に尽力するということが大切なテーマとなると考えられます。総合的に結果をみていくと、平成27年度報告内容の傾向として、学生は「チームで働く力」の要素に多いどちらかというと受動的な場合の社会人基礎力に長けている反面、「前に踏み出す力」の3要素や、お手本が参考にならない「考え抜く力」の中の「創造力」、「チームで働く力」の中でのリーダーシップに係る力である「発信力」に弱いことが判明します。いわゆる、「経営者・経営層」に必要とされる力の不足が感じられますので、就業後に是非ともリーダーたるに必要な社会人基礎力の養成に努めていただければと考えます。
- ★ 企業が求める人材は、経済状況・業種・個別企業等で様ではなく、就職活動に当っては、希望する企業がどんな人材を求めているのか、事前に情報を把握して極力ミスマッチの無いように努めることが重要です。企業風土の違いは歴然としています。是非、緻密に研究されることをお勧め致します。
- ★ 当法人は国立大学法人小樽商科大学の推進するキャリア開発教育に対し、同窓生のネットワークや人材、その関連企業等を活用して積極的に支援しております。とりわけ大学の正課科目であるエバーグリーン講座においては、実業界で活躍中あるいは現役を終えた同窓生を講師として派遣し、実務経験を基にした講義によって社会人基礎力の啓蒙、養成への支援を行っております。このような同窓先輩の講義が学生に対する社会人基礎力レベルアップの動機付けになることは間違いありません。今後も当法人は、大学のキャリア開発教育に対する支援及び就職支援活動を通じて得られた社会人基礎力に関する情報を大学側と協力して調査分析し、公開していく所存であります。何卒関係各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- ★ なお、本白書の作成に当っては国立大学法人小樽商科大学 商学部社会情報学科准教授 大津 晶氏に多大なご協力を頂きました。大津准教授は小樽商科大学教育開発部門長の任にあります。大津准教授より次ページ以降に小樽商科大学におけるキャリア開発の現状及びエバーグリーン講座受講学生に対する社会人基礎力に関する調査、アクティブラーニングによる教育効果についてご寄稿頂きました。誠に有難く厚く御礼申し上げます。

アンケートにご協力頂いた企業の中で
情報公開にご同意頂いた企業が
新卒時に求める
社会人基礎力の優先順位ご紹介

順不同に掲載させていただきます。

